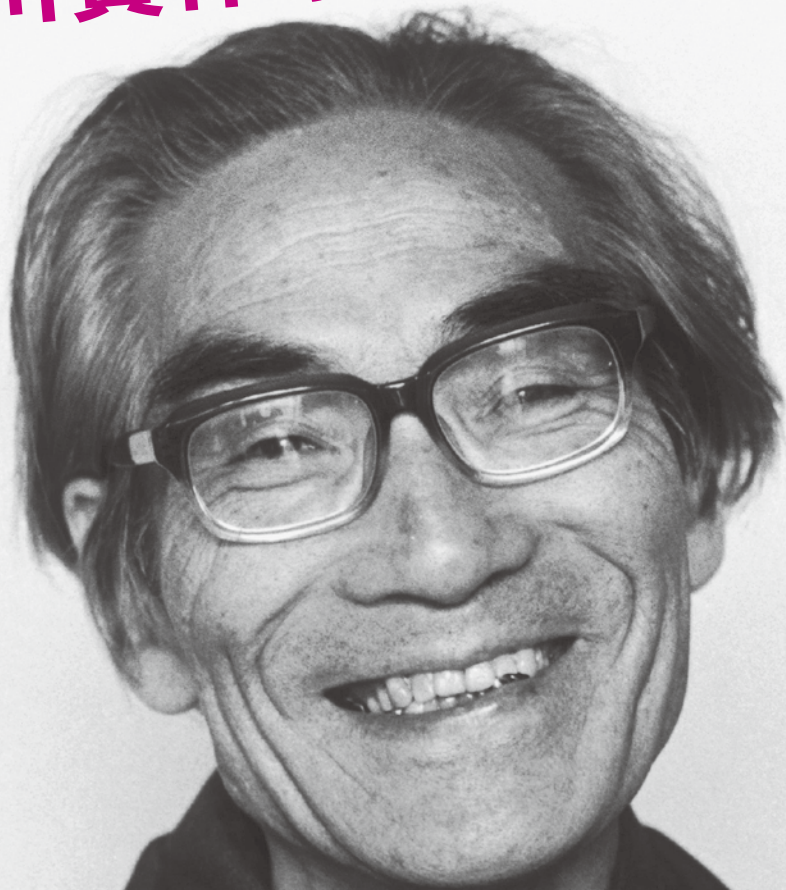


世界の果てで 生き延びる

— 芥川賞作家・八木義徳 展 —



2019.1.19^土 → 3.17^日

[観覧時間] 10:00 ~ 17:00

[休館日] 毎週月曜日(ただし2月11日は開館)
2月14日(木)、3月14日(木)

[観覧料] 無料

[監修] 紅野謙介

[協力] 室蘭市港の文学館、室蘭文学館の会

町田市民文学館ことばらんど

世界の果てで 生き延びろ

— 芥川賞作家・八木義徳 展 —



「劉廣福」特装版
(1980年、成瀬書房)



「満州観光連盟報」
(1941年6月、満州観光連盟)

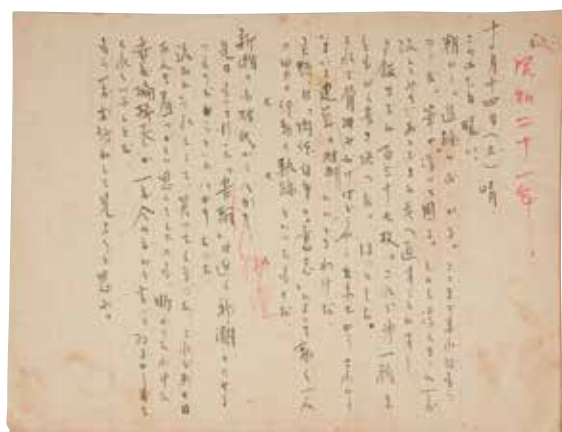


私たちはそれまで見慣れた風景や関係をいっぺんに失ったとき、荒涼とした世界の果てを前にしたように戦慄し、立ち尽くす。襲いかかる数々の苦難、度重なる不幸、抑えようのない怒りと身を苛む自己嫌悪、八木の生涯はその連続であった。生きることに意味はあるのか、生きていていいのか、自問自答のなか八木は文学に救いを求めた。戦前、戦中、戦後の激動の時間を生き抜き、その晩年をここ町田で過ごした最後の文士、八木義徳の文学的闘いを、没後20年目にたどる。とにかく生き延びろ、そこに活路はある。

— 展覧会監修者・紅野謙介



「宿敵」原稿 (1948年)



自筆日記 (1946年)

※すべて当館蔵

1969年から亡くなるまでの30年を町田の地で過ごした作家・八木義徳。八木は自身の経験を通して心の底から湧き上がってくる「肉の声」を作品にすることにこだわり、純文学という芸術に人生をかけた文士でした。北海道室蘭の病院長である父と芸妓をしていた母との婚外子という複雑な生い立ち、学生運動の果ての自殺未遂、出征と妻子の戦災死、スランプ…。本展では、次々と襲いかかる危機を前に悩みながらも目をそらさずに生き抜いた一人の作家の生涯とその「肉の声」を、初公開となる「宿敵」の直筆原稿や当時の日記などをご紹介します。

八木義徳(やぎ よしのり) 1911-1999

北海道室蘭郡室蘭町大町(現・室蘭市中央町)生まれ。早稲田大学卒。在学中に横光利一と出会い、生涯師事する。1944年、「劉廣福」により第19回芥川賞受賞。出征先にて報せを受ける。1977年、父への葛藤を描いた「風祭」にて第28回読売文学賞受賞。1988年、作家としての業績が評価され第44回芸術院恩賜賞受賞。

関連イベント 展示解説以外、会場はすべて町田市民文学館 2階大会議室です

【講演会】 2月2日(土) 14:00～15:30 紅野謙介(本展監修者)

「世界の果てで生き延びろ — 八木義徳の生きる力」

□定員：70名(申込順)

□申込：1月8日(火)正午から電話で町田市イベントダイヤル(042-724-5656)または町田市HP「イベシス」からイベントコード 190108F

2月17日(日) 14:00～15:30 根本昌夫(「海燕」元編集長)

「編集長の眼 — 八木義徳という人」

□定員：70名(申込順)

□申込：1月8日(火)正午から電話で町田市イベントダイヤル(042-724-5656)または町田市HP「イベシス」からイベントコード 190108G

【対談】 3月3日(日) 14:00～15:30 山下澄人(作家)×梅澤亜由美(大正大学准教授)

「[スミト]は誰? — 「しんせかい」という虚実の狭間で」

□定員：70名(申込順)

□申込：1月22日(火)正午から電話で町田市イベントダイヤル(042-724-5656)または町田市HP「イベシス」からイベントコード 190122A

【朗読会】 3月9日(土) 14:00～15:30 中村昇(元NHKアナウンサー)

「中村昇 朗読会 — 「劉廣福」を読む」

□定員：70名(先着順) □申込：申込不要。直接会場にお集まりください。

【展示解説】 1月29日(火)、2月13日(水)、2月28日(木)、3月17日(日)

いずれも14:00～(40分程度)申込不要。直接2階展示室にお集まりください。

【プレゼントキャンペーン】 展覧会アンケートにご協力いただいた方先着3,000名様に、八木の単行本未収録作品「宿敵」全文などを掲載した小冊子をプレゼントいたします。



- JR 横浜線町田駅ターミナル口から徒歩 8分
- 小田急線町田駅東口から徒歩 12分

町田市民文学館ことばらんど

〒194-0013 東京都町田市原町田 4-16-17
TEL : 042-739-3420 FAX : 042-739-3421



@machida_kotoba で
最新情報配信中!

